



立法論綱

二

第五十五号

共四

1

和装本

71  
55  
2





門録  
卷  
の

東京  
學校  
圖書

立法論綱卷二

第六篇

快樂及ビ痛苦ノ種類ヲ論ズ

世人ノ心情ヲ動カスニ足ラズ又其留意ヲ催ス  
ヲ待タズレテ經過シ去ルノ躰感甚タ多キニ居  
ルハ世人ノ日常實驗シテ了知スル所ナリ是故  
ニ人ノ慣熟スル所ノ世間事物ハ大抵人ヲシテ  
其苦樂ヲ覺知セシムルニ足ルノ躰感ヲ生ゼザ  
ル者トス其躰感ノ世人ノ留意ヲ催ス可キ者又  
諸躰感中ニ於テ特ニ指示ス可キ者又ハ世人ノ

立法論綱  
卷二

正  
路



之ヲ存センコトヲ希ヒ（按快樂ヲ指シテ云）或ハ之ヲ滅セン  
 コトヲ望ム（按痛苦ヲ指シテ云）者ノ外ハ皆指名スル能ハザ  
 ルモノトス而シテ其快適ノ會心ハ之ヲ別チテ  
 單純ノ會心ト混淆ノ會心トナス即チ其分析離  
 解ス可ラザル者ハ之ヲ名ケテ單純ノ會心ト云  
 ヒ其單純ナル數箇ノ痛苦ヨリ合成スル者又ハ  
 單純ナル數箇ノ快樂ヨリ合成スル者又ハ數箇  
 苦樂ノ相混同スルヨリ合成スル者ハ皆之ヲ名  
 ケテ混淆ノ會心ト云フ夫レ世人許多ノ快樂ヲ  
 視テ之ヲ單純ナル快樂ノ許多ナル者トセズシ

テ之ヲ混淆ノ快樂ト認ムルハ其快樂ノ感情ヲ  
 攪起スル原因ノ性質ニ關シテ然ルナリ是ヲ以  
 テ同一原因ノ力ニヨリテ生スル所ノ諸般ノ快  
 樂ハ世人皆之ヲ認メテ單一ノ快樂（按此快樂ハ  
 單純快樂ノ  
 轉合シテ一時ニ現出スル者之ヲ別テ數個單純  
 ノ者トナスベシ世人視テ單一トスルハ深々思  
 ヲザルガト做スニ至ル故ニ彼ノ演劇ノ如キモ  
 故ナリ）  
 ノハ其裝飾、音樂、看客、衣服、美及ヒ俳優ノ演戲  
 等皆一時ニ轉合シテ世人ヲシテ許多ノ躰感ヲ  
 樂マシムルモノナリ是ヲ混淆ノ快樂トナス  
 予ヤ單純ナル快樂ト單純ナル痛苦トニ就テ完



全ナル一表ヲ製セントシテ大ニ解析ノ力ヲ勞  
シタリ然リ而シテ其表タル固ニ澹泊無味ニシ  
テ讀者ヲシテ嚼蠟ノ思アラシメントスル者ナ  
リ何トナレバ彼ノ娛樂ト感發トヲ博取スルヲ  
以テ專一ノ目的トスル稗史者流ノ筆記スル所  
ニ異ニシテ唯事實ノ表記即チ舛感ノ目錄ノミ  
ナレバナリ

第一章

單純ノ快樂ヲ論ズ

第一 舛感ノ快樂 諸般ノアスソシエーション

按(理學ノ學語ニシテ一事ヲ思考スルニ方リ  
類ノ觸レ物ニ隨テ他事ヲ感想スルヲ謂フ允  
當ノ譯字ヲ得ズ連帶ノ感想湊合ノ感想等ノ  
字未ダ必ズ當ラズト雖氏稍本義ニ近シ本章  
中第十四條參看スベシニヨラスシ能ク人々ノ  
舛機ニ直接ノ關係ヲ為ス者即チ香味香艷目  
視耳聞膚觸ノ快樂就中健康保全ノ快樂精神  
ノ快通ナル一又樂易ニシテ懊惱無キ生活ノ  
會心即チ特ニ舛感ノ孰レニ屬ス可キカラ確  
知ス可カラザルモ其活動ノ氣力ニ關スル者  
又新奇ノ快樂即チ新異ノ事物來テ我舛感ニ  
接マルニ方リ覺知スルノ快樂是ナリ是等新

去論 卷二



奇ノ快樂ハ別ニ一種類ヲ成ス者ニ非ズト雖  
 氏其顯著ナル一部分ヲ占ルヲ以テ之ヲ明言  
 シテ掲ルヲ要トス按新奇ハ一種ノ快樂ニ  
 非ズレテ諸種ノ快樂ニ屬シテ  
 其カヲ現スル細小ニテ諸種ノ快樂ニ屬シテ  
 此快<sup>ニ</sup>樂<sup>ナ</sup>ル<sup>字</sup>面<sup>ヲ</sup>掲<sup>ゲ</sup>テ要ス  
 第二 富殖ノ快樂 是レハ財物ヲ掌有スルニ  
 ヨリ生ズル快樂ヲ總稱スル者ニシテ之ヲ掌  
 有スレバ即チ享樂ヲ得若クハ安固ヲ保スル  
 ノ手段トナルナリ而シテ其財ヲ新獲スルノ  
 際ニ方リ快樂ノ情特ニ盛ナル者ナリトス

第三 練熟ノ快樂 或ル難事ヲ遂ルヨリ起ル  
 者又凡ソ快樂即チ實利ヲ助ル所ノ器械ノ用  
 法ニ於テ己レノ巧ミ他人ノ上ニ拔ヅルヨリ  
 生ズル所ノ快樂ニシテ例ヘバ茲ニ人アリ自  
 ラハ<sup>リ</sup>ピアノ<sup>コ</sup>ル<sup>ド</sup>ノ樂器ヲ弄センニ他人ノ此  
 器ヲ彈ズルヲ側聽スルニ比スレバ大ニ別箇  
 ノ快樂ヲ感スル者ナリ  
 第四 交情ノ快樂 某々ノ人アリ我ニ好意ヲ  
 投シ我其好意ノ結果トシテ無報ノ服役ヲ彼  
 レニ望ムノ權アリト思惟スルヨリ起ルノ快



樂是ナリ

第五 盛名ノ快樂 郷黨及ヒ親戚知友若クハ  
 其利害ヲ共ニスル人等ノ尊敬ト好意トヲ享  
 得シ又其結果トシテ我が要用ノ時ハ彼等ノ  
 志願ヲ以テ其無報ノ服役ヲ我ニ致スヲ望ム  
 ノ權アリト思惟スルヨリ起ルノ快樂是ナリ

第六 威權ノ快樂 他人ノ願望若クハ畏懼ノ  
 心彼レ我ヨリ或ル凶害ヲ受ルヲ畏レ又ハ或  
 ル幸福ヲ享ルヲ希フノ心ヨリシテ其人ヲ我  
 ニ服役セシムルノ手段ヲ有スルヲ感スルノ

快樂是ナリ

第七 信神ノ快樂 天神ノ慈惠ヲ得若クハ之  
 ヲ享ケ以テ現世ト未來トニ於テ天神ノ特恩  
 ヲ得可シト希望スルノ權ヲ得若クハ有スル  
 ト感スルヨリ起ルノ快樂是ナリ

第八 慈惠ノ快樂 己レヲ愛スルノ人幸福ヲ  
 享ルアルニ方リ己レ之ヲ黙想スル時ニ感ズ  
 ルノ快樂ニシテ又之ヲ稱シテ好愛ノ快樂若  
 クハ交情ノ快樂ト云フ此快樂ノ膨脹力ニ大  
 小ノ差アリ乃チ或ハ自家狹窄ノ域内ニ集縮



シ或ハ人類ノ総部ニ擴張ス而シテ慈惠ハ其力ヲ我愛スル所ノ一種類ノ動物ヨリ遂ニ其動物ノ全類ニ及ボシ彼等ノ樂易ヲ見テ以テ我意ヲ快スルナリ

第九 害意ハ快樂 此快樂ハ人類ト動物トヲ論ゼズ我ヲ愛セザル生物ガ受ル所ノ痛苦ヲ見若クハ之ヲ想出スルヨリ起レリ又之ヲ稱シテ憤情ハ快樂ト云ヒ憎惡ハ快樂ト云ヒ交情ニ反スルハ快樂ト云フ可シ

第十 人其心力ヲ用キテ奇想ヲ發見セントス

ルニ際シ道義ノ學若クハ格物ノ學ニ於テ重要ノ真理ヲ發明シ若クハ之ヲ發見シタリト思考スルニ方リテ感ズル所ノ快樂ヲ名ケテ覺知ノ快樂ト云フアルキメドス 希臘ノ古賢異類重カノ 理ヲ發見ガ一難問題ヲ解シ得タルニ方リ感ズタル不勝ノ歡喜ハ奧妙ノ學問ヲ研究セル諸人ノ覺リ易キ所ナリ

第十一 人某狀ノ快樂ヲ享ケタル時又ハ或ル場合ニ於テ某狀ノ痛苦ヲ嘗タルスラ尚ホ漸次ニ其狀況ヲ精細ニ回想スルヲ好ム者ナリ



之ヲ稱シテ記憶ノ快樂ト云フ其回想ノ原ヲ起スノ記念種々ナルニ隨テ其快樂モ亦種々ナリトス

第十二 然ルニ又時トシテ記憶ノ或ル快樂ヲ感ゼシムルニ方リ己レノ所好ニ隨テ其快樂ヲ種々ノ形狀ニ假定シ此快樂ニ結合スルニ他人又ハ己レノ身上ニ經驗シタル事物ノ最モ快適ト覺ユル者ヲ以テス之ヲ想像ノ快樂ト云フ画工ノ天然ノ形象ヲ描クヤ其記憶ノ能力ヲ顯ハシ又遠近ニ布散スル物ヲ蒐メテ

己レノ適意ニ序列シ以テ想像ノ業ヲ現出ス夫レ工藝ト學科トニ於テ新意ヲ創出スルノ及ヒ吾人好奇ノ心ヲ感スルノ發明ハ皆想像ノ快樂ヲ助ル者ニシテ此發明ニ於テ享樂ノ想像地面ヲ拓張スルヲ覺エシムルナリ第十三 遠ラスシテ快樂ヲ享クベシトノ希望ニ結合セル未來ノ快樂ノ思念ヲ起スヨリシテ希望ノ快樂ヲ構成スルモノナリ第十四 連帶ノ快樂 一物其本質ニ於テ毫モ快樂ヲ生ズルニ堪ヘザル者アリ然ルニ快適



ナル或ル他物ト結合シテ思考スル時ハ其本  
質快樂ヲ生ゼザル物モ彼ノ快適ナル他物ノ  
性質ノ一部分ヲ取ル者ナリ例ヘハ一物ヲ賭  
セズシテ博戯ヲ為スモ贏取ノ快樂ト連合シ  
テ許多偶生ノ感情ヲ起スガ如キ是ナリ

第十五

痛苦ヲ基礎トシテ生スルノ快樂アリ  
茲ニ人アリ痛苦ヲ受タル時ハ其痛苦ノ減ス  
ルヲ若クハ減スルヲ以テ一快樂トス而シ  
テ往々其快樂甚タ旺ナル者アリ之ヲ稱シテ  
減苦ノ快樂ト云ヒ又脱苦ノ快樂ト云フ而シ

此其痛苦ノ種類々ナルニ隨テ此快樂モ亦種  
々ナリ  
以上皆人々享樂ノ材料ニシテ此物相結合聯絡  
シ互ニ相須テ千百様ノ變化ヲ成ス故ニ混淆セ  
ル一快樂中ニ其原素ナル單純ノ諸快樂ヲ發見  
スルニハ或ル注意ト經驗トヲ要スルナリ  
夫レ山川風景ノ快適ナルハ躰感想像好愛等許  
多殊狀ナル快樂ノ轉合スル者ニシテ千象ノ品  
物奇ヲ呈シ萬種ノ色澤光ヲ爭ヒ艷花ノ粲爛々  
ル蒼樹ノ鬱茂セル日華ノ陰映スルハ皆目ヲ悅



バシムル者ナリ鳥音ノ嚶々タル泉聲ノ潺々タル微風ノ樹杪草端ヲ度テ細響ノ沙々タル如キハ皆耳ヲ娛シムル者ナリ大氣ハ新萌鮮芽ノ芬芳ヲ送り軟和純清ノ空氣ハ人ノ氣血ヲ融和シテ其動作ヲ快活ニス而シテ想像ト慈惠ト相合スルヤ物産ノ繁盛ト地質ノ豐沃ナル思想ヲ生ゼシメ以テ其風光ヲ飾ル鳥獸家畜ノ無我ニシテ自得セル形狀ハ人生ノ疲困勞苦ヲ回想スルニ反對ノ姿ヲ呈シテ自ラ快ヲ覺エンム吾人ハ此等其新奇ナル諸物が我胸中ニ生ゼシムルノ

快樂ヲ移シテ之ヲ其地ノ住民ニ及ボシ終ニ此等ノ恩惠ヲ造為スル者ト認ムル所ト造物主ニ向ヒ謝恩ノ感情ヲ發シ以テ己レノ信心ト恭敬ノ意ヲ増加スルナリ

第二章

單純ノ痛苦ヲ論ズ

第一 缺乏ノ痛苦 一切ノ快樂ニ配合シテ其反對ノ位地ヲ占ル者即チ其快樂無キニ方リ憂鬱ノ感情ヲ生スル者ヲ指シテ云ルスルナリ此痛苦タル三箇ノ殊狀ヲ現ス其第一ハ人



或ル快樂ヲ好ムニ方テ之ヲ得ントノ冀望  
 ヲリ之ヲ得ザルノ憂患深キハ痛苦之ヨリ  
 生ズ之ヲ稱シテ願望ノ痛苦又願望不遂ノ痛  
 苦ト云フ其第二ハ人一快樂ヲ享受セントス  
 ルノ望甚タ旺盛ナルニ際シ不慮ニ其望ヲ失  
 喪スルニ遭フ時ハ痛苦之ヨリ生ス之ヲ稱シ  
 テ失望ノ痛苦ト云フ其第三ハ一ノ幸福ヲ享  
 有スルカ又ハ之ヲ享有ス可シト深ク信ジタ  
 ルニ是レ恰モ一幸福ヲ享タルニ同ジ此幸福  
 ヲ失喪スル時ハ痛苦ノ感情之ヨリ生ス此感

情ヲ稱シテ悔恨ト云フ厭鬱ナル辭ニ當レル  
 精神ノ疲勞ハ皆缺乏ノ痛苦ニシテ別ニ之ヲ  
 一物ニ係クルニ由ナシト雖モ唯快適ノ感情  
 無キヲ指シテ云ルナリ  
 第二 躰感ノ痛苦 此痛苦ニ九種アリ曰ク飢  
 渴ノ痛苦曰ク嘗味 麤臭 膚觸ノ三痛苦 此三者  
 ハ不快ノ躰感ヲ激生スルノ物質ニ觸ルニ  
 因テ生ズ 曰ク聞見ノ二痛苦 此二者ハアスソ  
 シエーシヨシ注見上ヲ離レテ耳目ヲ不快ニス  
 ルノ音聲象形ヨリ生ズ 曰ク寒熱ノ過度是ヲ

法論綱 卷二 十



膚觸ノ中ニ属ス可ラズトセバ曰ク一切ノ疾  
病曰ク身心ノ倦勞是ナリ

第三 拙劣ノ痛苦 諸器機ノ種々ノ使用其器  
機ノ快樂ヲ生ズルモノト痛苦ヲ起スモノト  
ニ關セズヲ為サントシテ心カヲ勞シ時トシ  
テ其成效ヲ見ザルニ方リ覺ユル所ノ痛苦ヲ  
云フ

第四 怨敵ノ痛苦 己レ某々ノ人ヨリ敵視セ  
ラル、標的ナリト自信シ又之レガ為メニ其  
怨志ヲ實施セラル、ノ難ニ遭フ可シト鬼胎

第五 惡評ノ痛苦 己レ現ニ世人ノ恨怒若ク

ハ輕侮ヲ受ク可キ標的トナリタリトシ又ハ  
斯ノ若キ標的トナル可シト信スル時覺ユル  
所ノ痛苦ニシテ又之ヲ臭名ノ痛苦ト稱シ又  
ハ公衆効權ノ痛苦ト稱ス

第六 信神ノ痛苦 上帝ヲ犯シタルヲ以テ現  
世若クハ來世ニ神罰ヲ蒙ル可キラ畏ル、ヨ  
リ生ズル所ノ痛苦ニシテ若シ果シテ罪蹟ア  
リテ此痛苦ヲ覺ユルハ之ヲ稱シテ宗教ノ恐



懼ト云ヒ其故無クシテ之ヲ為スハ之ヲ稱シテ迷妄ノ恐懼ト云フ

第七 慈惠ノ痛苦 人類ト動物トヲ論ゼズ其苦惱ヲ目撃シ若クハ思考スルニ方リテ感覺スル所ノ痛苦ヲ云フ慈惠ノ此感情ハ人ヲシテ他人ノ不幸ノ為メニ垂泣セシムルヲ恰モ己レ自ラ其不幸ニ遭フニ同ジカラシム又之ヲ稱シテ好愛ノ痛苦ト云ヒ若クハ交情ノ痛苦ト云フ  
第八 害意ノ痛苦 己レガ嫉惡スル者ノ幸福

ヲ見テ覺ユル所ノ痛苦ニシテ又之ヲ憎惡ノ痛苦ト稱シ若クハ交情ニ及スルノ痛苦ト稱ス

第九第十第十一 記臆ノ痛苦 想像ノ痛苦 恐懼ノ痛苦ハ恰モ此三個ノ快樂ニ配合シテ正ニ其反對ノ位地ヲ有スル者ナリ(按) 恐懼ノ痛苦中第十三ナル希望ノ快樂ニ反對スル者ナリ 恐懼ハ將來ノ凶害ヲ懸念シ希望ハ後日ノ幸福ヲ相反對ス 意 快樂及ヒ痛苦ノ此表ヲ製シタル其勞苦ハ蓋シ人ヲ觀感セシムルノ功ナシト雖モ其實利アル



ニ至テハ甚タ大ナリトス抑道義ノ全規ト立法ノ全規トハ共ニ唯一基礎ノ上ニ立テリ基礎トハ何ゾヤ痛苦ト快樂トヲ了知スルニ在リ即チ道義學ト立法學トノ問題ヲ明釋スルハ唯此一事アルノミ夫レ世人ガ徳ト云ヒ不徳ト云ヒ道ノ域ニ有罪ノ行為ト云ヒ無罪ノ行為ト云ヒ又褒賞ノ法ト云ヒ罰責ノ法ト云フハ立法ノ域何物ニ關シテ之ヲ言フ乎唯是レ痛苦ト快樂トノミ豈又他アラシヤ道義ノ學政治ノ學ニ於テ謂フ所ノ或ル道理ト云フ者ヲシテ若シ苦樂ト云

フ簡約ノ辭ニ翻用スル能ハザル者アラシメバ是レ曖昧詭怪ノ道理ニシテ其道理ヲ以テ何ノ一事ヲモ斷決スルニ足ラザルナリ例ヘバ一切ノ立法ヲ指定スルノ大目的タル犯罪ノ旨趣ヲ研究セントスル人アラシ是レ此ノ學タル苦樂ヲ比較シ計算スルヲ以テ其根基トス之ヲ除クノ外又何物カアラシヤ試ニ看ヨ夫ノ罪科即チ或ル行為ハ凶害トハ何物ゾヤ其行為ノ為メニ某々ノ人ノ被ル所ノ痛苦是レナリ其犯人ノ誘原トハ何物ゾヤ其心ヲ誘惑シテ此



犯行ヲ為サシメタル快樂ノ欲望是レナリ罪科  
ヨリ起ルノ利益トハ何物ヅヤ此行為ニ因テ生  
ズル快樂ヲ受ルト是レナリ之レニ施科スベキ  
刑罰トハ何物ヅヤ即チ其罪人ノ受ク可キ痛苦  
是レナリ是ニ由テ之ヲ視レバ苦樂ノ説ハ立法  
學ニ貫通スル唯一基礎タルヤ明カナリ  
此快樂ト痛苦トノ二表ヲ精査スレバ考察ノ際  
更ニ其含蓄スル所ノ餘意ヲ發見スルアラント  
ス  
夫レ快樂ト痛苦トハ共ニ容易ク之ヲ別チテニ

類トナスヲ得ベシ即チ其甲ハ他物ニ關スル所  
ノ苦樂ニシテ其乙ハ純ラ其身ニ屬スル  
ノ苦樂ナリ例ヘバ慈惠ノ苦樂害意ノ苦樂ハ甲  
ニ屬スル者ニシテ其他ハ悉ク乙ニ屬スル者ナ  
リ  
抑快樂ノ中其反對配合ノ痛苦ナクシテ獨存ス  
ルノ類モ亦多シ是モ亦察ス可キ者ナリ其第一  
ヲ新奇ノ快樂トス夫レ新異ノ物ヲ觀ルハ快樂  
ノ一ナリト雖モ唯此物無キモ亦痛苦ヲ覺ユル  
ト無キナリ其二ヲ愛憐ノ快樂トス夫レ此快樂



無キモ失望アル場合ヲ除キ別ニ特立ノ痛苦アル無キナリ蓋シ此愛憐ノ快樂無レバ其衷情無聊ナル可シト雖自ラ其慾ヲ制スルハ一般ニ各人ノ能ク為ス所ニシテ未ダ之ヲ痛苦ト稱スルニ足ラス其三ヲ富殖得財ノ快樂トス此快樂ナキモ亦失望アル場合ヲ除キ別ニ配合ス可キ反對ノ痛苦無シ夫レ物ヲ得ルノ常ニ快適ナルハ固ヨリナリト雖自ラ其慾ヲ制スルハ一般ニ各人ノ能ク為ス所ニシテ未ダ之ヲ痛苦ト稱スルニ足ラス其四ヲ威權ノ快樂トス此モ亦富殖得財ノ快樂ノ如ク之ヲ操把ス

ルハ幸福ナリト雖自ラ其慾ヲ制スルハ一般ニ各人ノ能ク為ス所ニシテ未ダ之ヲ痛苦ト稱スルニ足ラス其四ヲ威權ノ快樂トス此モ亦富殖得財ノ快樂ノ如ク之ヲ操把ス  
アラザルナリ其凶害ヲ覺ユルハ唯缺乏若クハ失望ノ如キ特狀ノ為メニ之ヲ致ス者ナリ按威權ノ快樂トスルハ其目的ヲ失フニ方リテ失望ノ痛苦アリ威權ヲ得ザル為メニ困乏ニ遭遇スル時ハ缺乏ノ痛苦ヲ生ス共ニ單行セ

第七篇

痛苦及ビ快樂ヲ以テ効權トナシテ論ス人ノ志向ヲ感起スルハ誘原ニ因ラザルアルナシ然リ而シテ吾原誘ト謂フ所ノ者ハ唯是レ快樂若クハ痛苦ヲ指シテ言フノミ若シ世間其痛



苦ト快樂トノ感覺ヲ以テ動シ能ハザルノ人アラシ乎是レ全ク人世ヲ脱離シテ吾人ト所縁ナキ者ナリ  
痛苦若クハ快樂ヲ以テ一法律ニ附スル時ハ之ヲ稱シテ其法律ノ効權ト云フ夫レ甲國ノ法律ハ乙國ノ法律ニアラズ何トナレハ乙國ニ在テハ其法律ノ効權ヲ有セス即チ人ヲシテ義務トシテ之ニ服行セシムルノ權利ヲ有セサレバナリ  
快樂及ヒ痛苦ヲ別チテ四類ト為スヲ得ルヲ左

ノ如シ  
第一 自然ノ苦樂  
第二 道義ノ苦樂  
第三 政治ノ苦樂  
第四 宗教ノ苦樂  
其レ既ニ斯ノ若シ故ニ今吾人行為ノ或ル規則ニ属セル賞罰ノ性質ヲ齎シ來テ其苦樂ヲ考察スレバ即チ其効權ヲ四類ニ區分スルヲ得ルヲ亦左ノ如シ  
第一 人為ノ以テ之ニ關涉スルヲナク造



化自然ノ進行ニ憑任シテ然ル後ニ生ス  
ベキノ苦樂ハ自然即チ造化ノ効權ニ属  
ス

第二 世人ノ友愛若クハ憎惡又ハ其尊敬

若クハ其輕侮ニヨリテ約言スレハ吾人

ニ向テ世人ガ隨意ノ旨趣ニ因テ生スベ

キノ苦樂ハ即チ道義ノ効權ニ属ス又之

ヲ稱シテ公衆ノ効權ト云ヒ世評ノ効權

ト云ヒ名譽ノ効權ト云ヒ若クハ愛憎ノ

苦樂ノ効權ト云フヲ得按ベシサム遺集  
中其論理用語解

辞ヲ云フ効權ヲ論スルニ道義ト公衆トノ  
ニ就テ世評ノ之ヲ毀譽スルハ唯道徳上  
ノ義務ニ於テ云々ナリトスルガ故ナリ

第三 法律ノ為メニ官吏ノ行為ヨリ生ズ

ベキノ苦樂ハ即チ政治ノ効權ニ属セリ

又之ヲ稱シテ法律ノ効權ト云フヲ得

第四 宗教ノ恐嚇若クハ許約按宗教家ノ

ハ恐嚇ナリ其神ノ為メニ生ズベキノ苦

樂ハ即チ宗教ノ効權ヲ成ス

茲ニ一家屋アリテ火災ニ罹リテ焚亡センニ此



火災タル若シ其主人ノ不注意ニ因テ起ランカ  
是レ自然効權ノ痛苦ナリ若シ夫レ法官ノ判決  
施行ニヨリテ之ヲ致サンカ是レ政治効權ノ痛  
苦ナリ若シ夫レ其郷人ノ惡意ニヨリテ起ラン  
乎是レ公衆効權ノ痛苦ナリ若シ夫レ天神ヲ瀆  
スニヨリ其神罰ヨリ起レリト假想セン乎此場  
合ニ於テハ宗教効權ノ痛苦ナリ即チ俗語ヲ以  
テ之ヲ言ハバ天神裁判ノ効權ナリ  
痛苦ノ同一種類ニシテ四者ノ効權ニ屬スベキ  
ハ右ノ一例ニ依リ明瞭ナル可シ唯其差異ハ効

權ヲ生スル事情ノ上ニ屬セリ  
以上ノ類別ハ此書ノ後段ニ至リ甚ダ緊要ナリ  
是レ理會ニ易ク且齊整シタル表記ニシテ無形  
効即チ人心機關ヲ構成スル智力ヲ區別シ之ヲ  
記載スルニ必要ナル者ナリ  
右四箇ノ効權ハ各人ノ身上ニ向テ必シモ同様  
ノ方ト同力ノ度トヲ以テ行ハル、者ニアラズ  
或ハ互ニ競進ニ就テ並行スルヲ為シ或ハ共ニ同盟  
ヲ為シ或ハ又敵對ニ就テ反對スルヲ相為ス而シテ  
其協同ヲ為スニ方リテハ最モ抗拒ス可ラザル



ノ勢力ヲ現ジ其相反對スルニ方リテハ互ニ其  
勢力ヲ減少シ而メ其相競進スルノ時ニ方リテ  
ハ人ノ行為ニ於テ不確不定トナリ又自家相違  
トナルナリ  
夫レ此四箇ノ効權ニ適合ス可キ四種ノ法律ヲ  
制定スルヲ得ント假想センニ若レ此四箇ノ法  
典ヲ合シテ一箇ノ法典ヲ構成セバ實ニ完全ノ  
最上点ニ達スルナルベシ其之レニ達スルヤ人  
ノ能クス可ラザルノ事業ニアラスト雖モ蓋シ  
又遼遠ニシテ遽カニ到着シ難シ然リト雖モ立

法者ハ常ニ唯政治ノ効權ニ因テ直接ニ其能力  
ヲ現ハスヲ銘肝セサル可ラス而メ其他ノ三  
箇者ハ必ず競行者カ或ハ同盟者カ又ハ其反對  
者カ或ハ從屬者カニ属スル者ナリ故ニ若シ立  
法者ニシテ其計畫ヲ為スニ方リ此三箇者ヲ其  
眼界ノ外ニ放置セバ之レガ為メニ其目的ヲ錯  
ルニ至ントス若シ之レニ反シテ能ク此三者ノ  
効權ヲ使用セバ必ず其洪大ナル勢力ヲ得ベキ  
モノナリ然リ而シテ實利ノ幟下ニ属スルニ非  
レバ此四者ノ効權ヲ結合スルノ機會ヲ得ザル



ナリ  
夫レ居常ニ其能力ヲ現ジ又單行シテ本質一定ナル者ハ唯是レ自然効權ノ一アルノミ此効權ハ能ク冥々ノ中ニ於テ他ノ効權ヲ自己ニ近ツカシメ又其岐路ニ横馳スルヲ止メ又人類ノ感情ト判決トニ齊整ヲ與フル者ナリ  
公眾ノ効權ト宗教ノ効權トハ彼自然ノ効權ニ比スレハ甚タ變更シ易ク殊ニ人々ノ隨意ニ属スル者ナリトス然リ而シテ此二者ノ中ニ就キ宗教ノ効權ニ比スレハ公眾ノ効權ハ稍平均確

固ニシテ稍實利主義ニ近キ者ナリ宗教ノ効權ハ甚タ不平均ナルノミナラス時勢ト人心トニ隨テ變更シ易ク又危險ナル過失ニ陥リ易キ者ナリ而シテ若シ人之ヲ委棄シテ之ニ關涉セザル時ハ其勢痿痺スト雖モ若シ之ヲ抗拒スル時ハ忽チ激發スル者ナリ  
或ル場合ニ於テ政治ノ効權ハ兩者按宗教ノ効權ニ比スレバ更ニ勝ルモノナリ即チ各人ノ身上ニ其平均ノ力ヲ現ジ其訓言モ亦明瞭ニシテ精密ナリ其施行ニ於テハ更ニ確ク更ニ則トル



可ク之ヲ完成セシムルモ亦甚ク為シ易シ而シテ其進歩ハ他二者ノ進歩上ニ直接ノ威力ヲ有スルナリ然レモ是レ唯其或ル種類ノ行為ニノミ限リテ人々ノ私行上ニ十分ナルカヲ有セズ唯憑證アル行為上ノミニ行ハル(此憑證ト云フ者ハ往々之レヲ得ルヲ難ニスル所ナリ)而シテ秘密ヤ威カヤ計策ヤ皆能ク政治ノ効權ヲ逃ル、ニ足レリ故ニ各種ノ効權ガ感スルヲ得ル所ト得サル所トヲ考察セバ其一ヲ廢棄ス可キニアラズシテ悉ク同方ノ目的ニ向テ之ヲ使用セ

ガ爾可ラザルヲ覺知スベシ此等ノ効權ハ譬々バ猶彼ノ礮石ノ如シ礮石若シ其反對ノ兩極位ヲ現スル時ハ全ク其用ヲ失ヒ又一致ノ極位ニ合スル時ハ其効カヲ倍スルナリ蓋シ古來人類ヲ分派シテ其孰レニカ属セシメタル教則ハ悉ク此四箇効權ノ中ニ就キ其一ヲ專取シテ基礎ヲ立タル者タルハ一考シテ之ヲ見出スヲ得ベシ而シテ各種ノ教則皆其黨アリテ已レヲ賞揚シ以テ他ノ教則ニ凌駕セント欲ス各黨又其仇敵アリテ他ノ瑕疵ヲ指摘シ其



誤謬ヲ譏刺シ其教則ヨリ生ズル凶害ヲ開發シ  
而シテ其レヨリ起レル良効ハ措テ問ハズ以テ  
其教則ノ位價ヲ下サント欲ス夫ノ社會(按)社會  
衆ト云ヒ世評ト云ヒ道ニ反對シテ自然ヲ揄揚  
シ宗教ニ反對シテ政治ヲ揄揚シ又自然及ヒ政  
治ニ反對シテ宗教ヲ揄揚スル一切ノバラドツ  
クス(按)一見シテ奇ナル如キモ細カニ察ハ皆此  
ノ如キ者ナリ  
此等ノ効權ハ皆誤謬アルヲ免レズ即チ實利主  
義ニ反スルノ用ヲ為スヲ免レズ然レモ上文載

スル所ノ標目ヲ適用シ来レバ一言ニシテ其凶  
害ノ巢窟ヲ指示スルヤ易々タルノミ例ハ一  
罪人ヲ刑シタル後無罪ナル其家屬ヲ輕侮スル  
ハ公衆効權ノ誤謬ナリ高利ノ罪科(即)チ法度ヲ  
越テ利金ヲ受ルノ罪科ハ政治ノ効權ノ誤謬ナ  
リ背神妖術ノ罪科ハ宗教効權ノ誤謬ナリ或ル  
愛憎ハ自然ノ効權ノ誤謬ナリ畢竟誤謬ノ萌芽  
ハ或ル單一ノ効權ニ起リ是レヨリ他ニ波及ス  
ルヲ通常ノ事トス此等一切ノ場合ニ於テ之ヲ  
藥スルノ方法ヲ索メ之ヲ用ルニ先チテ其凶害



ノ病根ヲ發見スルヲ要スルナリ

第八篇

快樂痛苦ノ尺度ヲ論ズ

立法者ノ目的トスル所ハ唯快樂ヲ増シ痛苦ヲ防グニ在リトス故ニ立法者ハ能ク其苦樂ノ價値ヲ知ラザルベカラズ立法者ノ使用スル器械ハ唯快樂ト痛苦トニ止レリ故ニ立法者ハ仔細ニ其勢力（按器械ノ勢カヲ學習セザルベカラズ）抑モ快樂ノ價値タル殊ニ其快樂ニ就テ論究シ又快樂ノ一人ニ關涉セシメテ論究スレハ即チ

左ノ四箇ノ事情ニ關係スルヲ知ルベシ

- 第一 其強弱
- 第二 其長短
- 第三 其確否
- 第四 其遠近

而シテ痛苦ノ價値モ亦此四箇ノ事情ニ關係ス然レドモ快樂痛苦ヲ一個獨立セルモノ、如クニシテ其價値ヲ論究スレドモ未ダ足ラサルナリ一種ノ痛苦快樂ヲ媒合シテ他種ノ痛苦快樂ヲ引起シ来ルヲアリ故ニ直接ノ痛苦若ハ快樂ヲ生



マル行為ノ趣向ヲ算定セント欲スレハ又更ニ  
左ノ二個ノ事情ヲ加ヘテ算考セザルヲ得ズ

第五 其生殖

第六 其純一

生殖ノ快樂ハ同種ノ快樂從ヒ来ルベキノ快樂  
ナリ

生殖ノ痛苦ハ同種ノ痛苦從ヒ来ルベキノ痛苦  
ナリ

純一ノ快樂ハ痛苦ヲ生ズベカラザルノ快樂ナ  
リ

純一ノ痛苦ハ快樂ヲ生ズベカラザルノ痛苦ナ  
リ  
又衆人ノ集合セルモノニ付テ算ヲ立ントスル  
片ハ更ニ左ノ一原素ヲ加フルヲ要スベシ

第七 其廣狹

廣狹トハ此痛苦若ハ快樂ヲ蒙ルベキ人ノ多寡  
ヲ言フナリ

吾人將ニ一行為ノ價值ヲ知ラント欲スル片ハ  
上ニ示シタル動作ヲ仔細ニ履行セサルヲ得ズ  
此動作ハ即チ心計解上ニ見ノ原素ナリ而シテ



立法ノ事業ハ斯ク算術的ノ一事トナレリ一凶  
害ハ減數トシテ一幸福ハ加數トス此算用ノ規  
程ハ他ノ算法ト異ナラズ此法ヤ緩慢ナリト雖  
氏決シテ錯誤アラザルナリ之ニ反シテ夫ノ所  
謂感情ハ神速ナレ氏錯誤ヲ生シ易キモノナリ  
但シ事毎ニ此算法ニ為スヲ要セズ人已ニ此法  
ニ慣熟シ其法ノ算用ノ正シキヲ習得スレバ  
速ニ幸福ト凶害トノ全數ヲ比較スルヲ得ベク  
シテ自ラ算用ノ順序ヲ踏メルヲ覺ラザルガ如  
シ吾人殆ト自ラ覺ラズシテ算術的ノ計畫ヲ作

ス一皆此ノ如シ實ニ分析ノ方式ヲ仔細ニ行フ  
ハ唯新奇若クハ錯雜ナル事件ニ遇フニ方リテ  
之ヲ要スルノミ又ハ爭論ノ點ヲ辨明シ或ハ真  
理ヲ知ラザルモノニ向テ之ヲ証スルキニ必要  
ナルベキノミ  
此心計ノ説ハ未ダ曾テ明解セシモノアラズト  
雖氏實地ニハ常ニ行ハレタルナリ少クトモ世  
人明カニ其利益ヲ知ルノ場合ニ於テハ皆此ノ  
如シ例ヘバ田産ノ價值ヲ成立スルモノハ何ゾ  
ヤ其地ヨリ生ズベキ快樂ノ總計ニ非ズヤ又此



價值ハ其地ヲ享有スヘキ期限ノ長短ニ從テ變  
スルニ非スヤ之ヲ所有ス可キ時期ノ遠近ニ從  
テ變スルニ非スヤ之ヲ所有スルノ確實ナルト  
否ザルトニ依テ變スルニ非スヤ  
立法ノ事業ト人ノ道義ノ行為トニ於テ誤謬ヲ  
為スハ必ズ幸福凶害ヲ算用スルニ當テ此原素  
按本篇列掲スル所ノ或者ヲ誤ルカ忘ル、カ或  
ノ七條目ヲ指ス  
ハ誤算スルヨリ起ランノミ

第九篇

第一章

感情ヲ動スノ事情ヲ論ス

快樂ノ諸原因ハ衆人ニ一様ノ快樂ヲ與フル者  
ニアラス痛苦ノ諸原因モ亦常ニ一様ノ痛苦ヲ  
生スル者ニアラザルナリ夫ノ感情ノ差異アル  
者ハ實ニ之ニ因レリ差異ニ二類アリ曰ク度曰  
ク類是レナリ度トハ何ゾヤ一原因衆多ノ人ニ  
一同ノ感覺ヲ生スルト雖其淺深アル時ニ就  
テ云フ者ナリ類トハ何ゾヤ一原因彼此ノ人ニ  
反對ノ感情ヲ生ズル時ニ就テ云フ者ナリ  
感情ノ此差異アルハ人々心身ノ形狀ニ感ズル



所ノ或ル事情ニ關係セリ故ニ心身ノ形狀變化  
 アルニ隨ヒテ其感情モ亦之ニ配合スルノ變化  
 ヲ為ス是經驗ノ實蹟ナリ外物ノ人ヲ感スルヤ  
 其身躰健康ノ時ト疾病ノ時ト其狀ヲ同クセズ  
 豊富ノ時ト貧困ノ時ト其狀ヲ同クセズ幼孩ノ  
 時ト老耄ノ時ト其狀ヲ同クセズ然リト雖此  
 通觀ハ未タ之ヲ盡セリト謂フ可ラズ更ニ一步  
 ヲ進メ人心ニ透入シテ論究スルヲ要スル者ア  
 リ曩者リオ子（按荷蘭ノ人博物學解  
 剖學彫刻學ノ大家  
 蝨蛉ノ解  
 剖ヲ論ジテ一書ヲ著セリ夫ノ無形ノ理學ニ於

テモ亦彼ノ學ト同一ニシテ此ノ如キ忍耐格致  
 ノ學士無ル可ラス予ヤ今リオ子ノ堅忍ニ倣  
 フ能ハス唯新奇ノ觀察法ヲ開示スルヲ以テ立  
 法學ヲ講究セント欲スル者ノ為ニ徃日ノ手  
 段ヨリ精確ナル者ヲ啓示スルヲ以テ満足セン  
 トス  
 第一 人身全躰ノ基礎ハ本質（本質即チ固有ノ天  
 質是レナリ此ニ稱スル本質ノ辭義ハ生初ヨ  
 リ人ニ附着スル根本原始ノ氣質ニシテ其形  
 躰ノ構造精神ノ天稟ニ屬スル者ヲ指シテ云



尔スルナリ  
然ルニ此根本ノ天質ハ其他諸性質ノ基礎ナ  
リト雖氏此基礎タル隱伏シテ之ヲ拿捉スル  
甚タ難キガ故ニ此基礎ヨリ生ズル許多ノ感  
情ト他ノ原因ヨリ来ル所ノ感情トヲ識別ス  
ルモ亦甚タ難シ  
此等許多ノ本質ヲ識別シ其混淆ヲ分析シ其  
効力ヲ講索スルハ躰理學家ノ職分ニ属セリ  
然レド此等ノ術未ダ深奥ニ達セザルガ故ニ  
道學家法學家ガ之ヲ基本トシテ新意ノ局面

ヲ開クニ足ラス  
第二健康 健康ト云フ者ハ其反對ノ方ヲ  
説出シテ影寫スルニ非レバ之ヲ解釋スル甚  
ダ難シ夫ノ健康トハ首トシテ身躰ノ或ル部  
分ニ關ス可キ痛苦若クハ不快ノ感覺無キヲ  
指シテ云ルナルナリ蓋シ感情ヲ通觀スルニ  
人ノ疾病アルニ方テヤ快樂ノ原因ニ感ズル  
トハ寡ク痛苦ノ原因ニ感ズルト多シ  
第三 躰力 躰力ト云フ者ハ健康ト親接セ  
リ然レド細ニ觀察スルニ両者判然トシテ殊



異ノ事情ニ属セリ何ゾヤ此ニ人アリ之ヲ世  
間通常ノ者ニ比スルニ體幹虛弱ナリト雖  
未ダ之ヲ以テ病人トス可ラザレバナリ  
ノ度ハ其扛ル所ノ輕重ニヨリ其他此類ノ手  
段ニ因テ精細ニ秤量スルヲ得ルナリ夫ノ虛  
弱ト云フ辭ハ時トシテハ筋力無キ意ヲ表出  
スル影寫ノ字面トナシテ用井又時トシテハ  
甲ヲ乙ニ比較シテ其乙ノ如ク強壯ナラザル  
トヲ表出スルニ用ケル  
第四 身軀ノ廢缺 此ニ身軀ノ廢缺ト云フ

或ル顯然タル不具ヲ指ス者ニシテ即チ他  
人有スル所ノ或ル肢軀若クハ能力ヲ缺クヲ  
謂フ人ノ感情ヲ動カス其特殊ノ効果ハ廢缺  
ノ種類ニ属シ其一般ノ効果ハ其人快樂ノ若  
干度ヲ減殺シ痛苦ノ感覺ヲ増加スルナリ  
第五 智識ノ度 人自己ノ幸福若クハ他人  
ノ幸福上ニ威力ヲ現發スベキ思想ヲ有セリ  
此思想ノ全分ヲ稱シテ智識ノ度ト云フ智者  
トハ此重要ナル思想ヲ多有スル者ヲ名ツケ  
愚者トハ之ヲ少有シ且其少有ノ思想モ亦重



ナルニ足ラザル者ヲ名ツク  
第六 智カノ強壯 既ニ得タル思想ヲ感起  
シ若クハ新タニ之ヲ得ルニ就テ其難易ノ度  
ヲ指シテ云ルス人心許多ノ形狀ハ皆之ヲ此  
項ニ属スルヲ得ベシ例ヘバ記憶ノ的確ナル  
注意ノ精到ナル識別ノ分明ナル想像ノ旺盛  
ナル等皆是レナリ  
第七 精神ノ堅固 眼前ノ苦樂ヲ輕視シテ  
將來ノ大苦樂若クハ必然ナラザル大苦樂ヲ  
深ク感スルノ人ニ該ツルニ此句ヲ以テスベ

シチユレシ又按佛國ノ名將ナリ叛黨中ロシ  
レシ又終ニ女侯ノ為ニ叛黨ニ入ルガ一  
婦ノ請願ニ志ヲ動シテ國家ノ密事ヲ漏泄セ  
シハ精神ノ堅固ヲ缺ク者ナリラセテイモン  
希臘古代ノ少年等ガダイアナ神名少年ノ強  
ノ國名ノ神壇ニ於テ之ヲノ神壇ニ楚撻ヲ甘受  
楚撻スルノ風習アリノ神壇ニ楚撻ヲ甘受  
シ死ニ至ル迄叫喚ノ一聲ヲモ發セザル如キ  
ハ恥辱ヲ畏懼シ名譽ヲ希望スルノ念蔓カニ  
眼前ノ此痛苦ニ超エタル威力ヲ有スルノ一  
證トス可シ



第八 耐久ノ恒心 此形狀ハ一ノ誘原アリ  
テ之レガ為メニ感起シタル志向其一様ノ勢  
カヲ保ツテ衰ヘザル時間ノ長短ニ關スル者  
ナリ此ニ人アリ其行為ヲ曳起シタル誘原之  
レガ勢力ヲ弱ム可キ或ル外物ノ變化起ルニ  
遭ハズ又此ノ如キ理由ノ現出スル無クシテ  
悉ク其勢力ヲ失喪スルカ或ハ物ニ會シ事ニ  
隨ヒ心志屢々遷ルアラバ吾人ハ此人ヲ評シ  
テ耐久ノ恒心無キ者ト謂フ夫ノ幼兒ノ玩物  
ヲ弄スルヤ太ダ歡喜スト雖モ忽チ之レヲ厭

倦スル如キハ是レ即チ耐久ヲ恒心無キニ由  
レリ  
第九 意好ノ偏倚 先ヅ胸中ニ生ズル所ノ  
一苦一樂ノ思想ハ其苦ト樂トニ實際遭遇ス  
ルニ方テ感ズル者ニ大ナル威力ヲ現ス蓋シ  
感情ノ効果ハ大抵豫期スル所ニ相應スト雖  
モ其常ニ然ルヲ必トスル能ハズ例ヘバ一婦  
人ヲ得タルヨリ生ズル快樂ノ度ハ其婦人ノ  
美ヲ以テ測ル可ラズシテ其男子ノ戀情ニ因  
テ之ヲ度ルヲ得ベキガ如シ故ニ若シ一人ノ



意好ヲ知悉スル時ハ一事ノ其人ヲ感ズルニ  
 方リ其苦樂ヲ測度スルニ於テ八九分ノ正算  
 ヲ得ベキナリ(原注)以下四項ノ事情ハ唯此項  
 項ノ事情ハ情ナリ之ヲ切言スレバ特  
 殊ノ苦樂ニ関シテ考察セル意好ナリ  
 第十 名譽ノ意思 此ニ所謂名譽トハ他人  
 ノ評論即チ其尊敬ト輕侮トニ因テ生ズル苦  
 樂ノ為メニ曳カル、ノ感情ヲ指ス者ニシテ  
 名譽ノ意思ハ國ニ隨ヒ人ニ隨テ大ナル相異  
 アリ故ニ第一ニ此誘原ノ勢力ヲ區別シ第二  
 ニ其方向ヲ區別セザル可ラズ

第十一 宗教ノ意思 感情ノ全軀ニ向テ宗  
 教ノ感スル所其度ノ大ナルハ世人ノ固ヨリ  
 熟知スル所ナリ而シテ其中ニ就テ最モ極大  
 ノ効力ヲ現スルハ宗教初起ノ時ヲ然リトス  
 夫レ柔順ノ國民ヲ慘酷ナラシメ怯懦ノ國民  
 ヲ強猛ナラシメ奴隸ヲシテ其自由ヲ回復セ  
 シメ蠻夷ヲシテ開化ノ制軌ニ服セシム蓋シ  
 斯ノ若ク迅速ニシテ非常ナル効果ヲ人類ニ  
 現發シタル者ハ其レ唯宗教ノミ又宗教ガ特  
 殊ノ偏情ヲ人ニ賦與スル其種々ナルモ亦驚



クベキナリ

第十二 愛憐ノ感情 他人ノ幸福ヲ見テ己  
レ為メニ快樂ヲ覺エ其痛苦ヲ見テ己レ為メ  
ニ之ヲ分受セント思ハシムルノ情アリ今之  
ヲ稱シテ愛憐ノ感情ト云フ而シテ其唯一箇  
人ニ對シテ現ハル、時ハ之ヲ稱シテ友愛ト  
云ヒ又痛苦ニ罹レル人々ニ關シテ發スル時  
ハ之ヲ稱シテ惻怛愛憫ノ心ト云ヒ若シ一黨  
ノ諸人ニ及ブ時ハ之ヲ稱シテ一黨ノ精神又  
朋黨ノ精神ト云フ其全國ニ廣被スル時ハ之

ヲ公義ノ精神又愛國心ト云ヒ其人類ノ全部  
ニ普及スル時ハ之ヲ仁心ト稱ス  
然リト雖モ普通ノ人間社會ニ最大部分ヲ占  
ル愛憐ノ種類ハ恩愛ヲ或ル有限ノ人ニ結合  
スル者ニシテ親子、夫妻、朋友ノ如キ皆是レナ  
リ而メ其効力ヲ通觀スレハ快樂ト痛苦トニ  
關セズ共ニ其感情ヲ増加スルニ在リ之レニ  
因テ人々其領分ヲ擴メ孤立ヲ離レテ集合ニ  
就ク蓋シ人ハ己レガ愛スル所ノ人ニ於テ己  
レノ假身ヲ現スル如キヲアリト云フヲ得バ



レ而シテ此假身ヲ愛スルコトハ其本身ニ於ケルヨリ甚キ者之レ無キニアラス又自己ト情縁アル者ノ身上ニ事故アルキニ方リ却テ自己ノ事故アルヨリ感情厚キコト之レ無キニアラズ例ヘバ其親友按親子夫妻等ヲ包括スノ身ニ起レル痛苦ヲ己レガ悲哀ノ至慘ナル者ト感シ其喜悅ヲ見テ己レ之ヲ快トシ以テ最大樂事ト感ズル時ノ如キ此皆愛憐ノ能力ナリ而シテ此等ノ感情タル之ヲ人ヨリ受ケ又之ヲ人ニ授ケ遮ニ相往来スルニ從テ愈増加スルモノナ

リ譬ヘバ許多ノ玻璃鏡ヲ臚列シ互ニ光線ヲ傳遞シテ之ヲ一燒点ニ聚集シ其相互ノ反照ニ因テ熱度ヲ増加セシムルガ如シ夫ノ立法家ノ有妻人ヲ寡夫ニ愈レリトシ一家族ノ父ヲ無兒ノ獨夫ニ愈レリトセシヤ其理多シト雖此愛憐ノ能力ハ其一ニ居レリ夫レ法律ハ此愛憐ノ感情ニ多接スルノ人ニ於テ愈其効力ヲ現スルナリ此ノ如キ人ハ相續人ノ幸福ヲ思考スルガ為メニ現時ト將來トニ注意スト雖此之レニ反シテ其情縁無キ人ニ至テ



ハ唯眼前ノ掌有ノミヲ以テ満足スルナリ  
 父子ノ天縁ヨリ生ズル愛情ニ關シテハ時ト  
 シテ特ニ他ノ一切ノ感情ヲ離レテ單行スル  
 一アルヲ見ル即チ其父ノ得タル聲譽ハ之ヲ  
 其子ニ流傳シ其子ノ取レル汚名ハ之ヲ父ニ  
 反及ス蓋シ一家ノ族類ハ假令其利害ヲ共ニ  
 セズ其意好ヲ同クセザルモ尚ホ各個ノ名聲  
 ニ關シテ其闔家ノ人同一ノ感情ヲ有スル者  
 ナリ

第十三 憎惡 此ノ感情ハ上項ニ掲ゲタル

所ノ開張カト感動カト有スル感情按愛憐  
情ヲ  
 云ノ反對ナル者ナリ幸ニシテ愛憐ノ原因ハ  
 常ニシテ自然ナル者ナリ其感情ハ必ズ所ニ  
 隨ヒ時ニ隨ヒ事ニ隨ヒ油然トシテ發見シ来  
 レリ之レニ反シテ憎惡ノ原因ハ變ニシテ雲  
 烟ノ如キ者ナリ時ニ隨ヒ所ニ隨ヒ事ニ隨ヒ  
 人ニ隨ヒ常ニ變化シ毫モ確實的定セル者ナ  
 シ然リト雖モ此兩者按愛憐ト憎  
惡トヲ云時トシテハ  
 相結合一致シテ行ハル、一アリ故ニ仁慈ノ  
 心ハ人ヲシテ不仁者ヲ惡マシメ友愛ノ情ハ



其朋友ノ仇敵ヲ憎マシメ而シテ憎惡ト云フ者ハ其共同ノ仇敵ヲ有スル所ノ二個人ヲシテ一致セシムルノ原因トナルナリ  
第十四 痴呆即チ心機ノ錯亂 心機ノ不具ナルハ之ヲ無智庸懦躁怒輕佻ニ歸スルヲ得而シテ所謂痴呆ト云フ辭ハ心機不具ノ極度ニシテ恰モ顯著ナル身体不具ノ如ク世間最モ親易キ者ヲ指ス而シテ心機ノ不具ハ此ニ記載スル按無智庸懦等ヲ云フ諸般ノ不具ヲ生ジ又次テ其極度ニ至ラシムルノミナラズ尚ホ且人

ノ意好ニ背理危険ナル變狀ヲ起サシムルナリ  
狂者ノ感情ハ或ル一点ニ向テハ極度ノ感ヲ起シ他ノ一点ニ向テハ全ク其感ナキヲアリ即チ非常ノ疑懼有害ノ禍心ヲ抱キ一切仁慈ノ感情ヲ失喪シ自他共ニ之ヲ尊重スルヲ知ラズ一切ノ礼容行儀ヲ冒ス但恐懼スルト厚遇セラルトニ感ナキニアラス而シテ果敢ヲ以テ之ヲ屈服スベク又温和ヲ以テ之ヲ馴従ス可シ然レモ狂者ハ其心事將來一及バズ



唯現時ノ手段ヲ以テ之ヲ駕御スルヲ得ベキ者ナリ

第十五 財計ノ事情 財計ノ事情トハ唯要需ノ全額ト媒貨ノ全額トヲ比較スルニ因テ成ル者ナリ其媒貨トハ左ノ三款ヲ包括ス其第一ヲ財産トス勞力ヲ用キスシテ之ヲ有スル者ナリ第二ヲ勞力ノ利益トス第三ヲ財貨ノ賑濟トス是レ人其親戚ト朋友ニ期望ヲ屬シテ之ヲ得ル者ナリ  
要需ハ四款ノ事情ニ關ス其第一ヲ費用ノ常

習トス財計此常習ヨリ優剩ナレバ之ヲ剩餘ト云ヒ其不足ナル者ハ之ヲ缺乏ト云フ凡ソ人間欲望ノ多分ハ唯其過去ノ享樂ヲ回憶スルヨリ成ル者ナリ第二ヲ法律若クハ輿論ニヨリ己レ其養育ヲ負擔ス可キノ人トス即チ兒子貧困ノ族戚老年ノ僕隸是ナリ第三ヲ不慮ノ要需トス即チ或時ハ同金額ニシテ平常ヨリ高キ價格ヲ有ス例ヘバ緊要ノ詞訟ヲ為シ若クハ家族ノ運命ニ關スル旅行ノ費用ニ供スル時ノ如キ是レナリ第四ヲ利得若クハ



遺物相續等ノ期望トス財貨ヲ獲ルノ期望ハ其期望力ノ淺深ニ隨ヒ輕重アリト雖其真ノ要需タルヲ及ビ其期望ヲ失フニ方リテハ己レ既ニ掌有スル所ノ財産ヲ失フト殆ンド感ス同クスルヲアルヤ明カナリ

第二章

感情ヲ動ス第二ノ事情ヲ論ス

感情ノ差異ヲ説明セント欲セル諸學士ハ此書ノ前章ニ於テ未タ記載セザル事情ヲ以テ其原因トナシタリキ其目ハ男女老幼位格教育常慣

ノ職業氣候人種政治宗教等ニテ異等ノ事情皆甚ク明カ且之ヲ觀察スルモ亦其場々又感情ノ殊異ナル現象ヲ説明スル各事最重便ナル者ナリ然リト雖其是等ハ唯第三ノ事情ニミ其第二ノ事情ト云フ所以ハ是等ノ事情ノ原理ニアラスシテ却テ第一章ニ記載セル許多ノ事情ヲ以テ之ヲ解説スルヲ得可キ者ニシテ第二事情ハ即チ第一事情ノ結合シテ彼レヲ代理スル者ナリ而シテ此第二ノ事情ハ各々其中ニ許多ノ第一事情ヲ包含セリ今解説ニ便スル



為メニ男女ガ人ノ感情ニ感ズル一例ヲ言ニ此  
一語（按男ト云  
語ヲ云）中ニ躰力、智識、精心ノ堅固耐久  
ノ恒心、名譽ノ思想、愛憐ノ感情等ノ許多ノ第一  
事情ヲ包含セリ又吾人若シ格位ノ威カト云ハ  
ン乎是レ第一事情ナル智識ノ度、名譽ノ思想、家  
族ノ情縁、常慣ノ職業、財計ノ事情等ノ或ル湊合  
ヲ指シテ云ル耳其他諸般ノ例ニ至テ皆同  
ク然ラサルナレ此等ノ第二事情ハ各々第一事  
情ノ或ル數箇ニ翻折スルヲ得ルナリ此區別ニ  
至テハ實ニ緊要ナリト雖氏之ヲ解析シタル者

未タ嘗テ之ヲ有ラザルナリ今請テ逐其之ヲ分  
解セシメテ主善ニ當ルヲ示スハ其意計  
第一男女。其婦人ノ物ニ感動シ易キハ男子  
ヨリ甚シク其體質モ男子ヨリ脆弱ナリ一般  
ニ論スレハ體力、智識、心性ノ能力、精神ノ堅固  
皆男子ニ劣レリ而シテ其道義ト宗教ノ感情  
ハ男子ヨリ旺ニシテ愛憐憎惡ノ威力殆ンド  
婦人ノ全部ヲ支配セリ婦人ノ名譽ハ多ク恭  
儉ト貞烈トニ成リ男子ノ名譽ハ誠實ト勇敢  
トニ成ル婦人ノ宗教ニ於ケルハ迷路ニ入り



易ク之ヲ詳言スレバ細事ニ拘ルノ謂ナリ其  
兒子ニ於ケル兒子ノ畢生ヲ極メテ之ヲ愛ス  
ルノ男子ヨリ甚シクシテ其幼稚ニ方テハ特  
ニ極メテ甚シ又他ノ艱難ニ會ヘル者ヲ見テ  
惻怛ノ感ヲ發スル男子ニ過キ其困厄ヲ解カ  
ント欲シテ自ラ痛苦ヲ甘受シ之レガ為メニ  
新ニ愛情ノ聯絡ヲ生ス然リト雖其仁愛ハ  
之ヲ男子ニ比スレハ狹窄ノ域内ニ局セラレ  
テ實利主義ニ管制セラレ、一寡ク又其愛情  
ヲ邦國ノ幸福ニ留ムルヲ希ニシテ其人類ノ

幸福ヲ思フニ至テハ又更ニ疎ナリ其黨與ニ  
關シテ利害ノ感ヲ抱クハ大抵常ニ或ル私情  
ノ愛憐ニ屬セリ其親睦ト憎惡トハ多ク隨意  
ト想像トニヨレリ之レニ反シテ男子ハ自家  
ノ利益若クハ公同ノ實利ヲ顧念ス婦人常習  
ノ娛樂ハ男子ニ比スレハ穩靜安逸ニアリ之  
ヲ通論スルニ婦人ハ家内ノ事ニ適シ男子ハ  
門外ノ務ニ適セリ家政ノ經理ハ婦人ノ掌裡  
ニ付スルヲ良トシ外事ノ要計ハ男子ノ手中  
ニ置カザル可カラス



第二 年齢 人生其年齢ノ各期ニ隨ヒ其感情ヲ感動スルモ亦相異ナリ然リト雖モ其各別ノ壇界ヲ明確ニ指定スルハ極メテ難シトス何ントナレバ年齢ノ各期ハ人々萬殊ニシテ實際ニ於テ諸人全ク同一ナラザレバナリ夫ノ幼孩、少童、妙齡、丁壯、老年、耄耋ヲ以テ人生ノ區域階位ト為ス如キモ唯是レ汎然トシテ說出セル概言ノ區別タルニ過ラ余ガ前章ニ縷説シタル心性種々ノ不具ハ幼孩ノ時ニ於テ最モ著明ニシテ常ニ縝密ナル保護ヲ要ス

又少童妙齡ノ時ニ方テハ其感情快利活潑ナリト雖モ慎重ノ主義ニ制セラレ、ヤ甚ダ希ナリ其世故ニ經驗無キト情慾ノ熾盛ナルトニ誘引セラレ易クシテ之ガ為メニ過行アルヲ免レズ故ニ立法者ハ須ラク此年齢ノ者ヲ保護シテ此極ニ至ラザラシム可シ又耄耋ニ於テハ其諸点ノ關係畧々幼孩ノ不具ナル有様ニ復シタルニ同ジ  
第三 位格 此事情ハ其効力多ク邦國ノ政制ニ關スルヲ以テ位格ニ關シテ普通ノ真説



ヲ明言スルハ甚ダ難シ然レモ之ヲ概言スル  
ニ感情ノ全分ハ下等ノ位格ヨリ上等ノ位格  
ニ多ク名譽ノ思想ニ至テハ上等ノ位格ヲ以  
テ特ニ熾盛ナリトス

第四 教育 健康、体力、剛強ハ之ヲ身軀ノ教  
育ニ係ク可ク、智識ノ多寡及ビ其種類、又精神  
ノ堅固、耐久ノ恒心ノ幾分ハ之ヲ智慧ノ教育  
ニ属ス可シ、意好ノ偏倚、名譽ノ思想、宗教ノ思  
想及ビ愛憐ノ感情等ハ之ヲ道義ノ教育ニ歸  
ス可ク、常慣ノ職業、悞樂、親愛、費用ノ習慣、財計

ノ資本ハ之ヲ一般ノ教育ニ属ス可キナリ然  
リト雖モ吾人教育ヲ論ズルニ方リ須ラク左  
ノ事ニ掛念シテ忘却セザルベシ曰外事ノ遭  
遇若クハ自然ノ性質ニヨリ教育ニ變状ヲ生  
ジ往々教育ノ効力ヲ計算スル能ハザルコト  
ルナリ

第五 常慣ノ職業、其利益ニ關スルト悞樂、撰  
取ニ出ルトニ拘ラズ、常慣ノ職業ハ他ノ諸  
原因、健康、体力、智識、意好、名譽ノ思想、愛憐、憎惡、  
財計等ニ感ズルナリ吾人ガ或ル職業ニ就テ



其一般ノ特状ヲ見出スルハ實ニ之レニ因レ  
 リ而シテ其一種一類ヲ構成スル者ニ至テハ  
 最モ顯著ナルヲ見ル夫ノ僧徒、軍人、水夫、法律  
 家、官吏等、如キ即チ是レナリ  
 第六 氣候 往昔ハ事ノ原因ヲ氣候ニ歸シ  
 タルト過多トリシガ今ハ若ク甚カラズ抑氣  
 候ヲ檢索スルハ甚ダ難シ其故ハ甲國ト乙國  
 ト比較スルハ唯或ル大事蹟ニノミ就テ之ヲ  
 為スヲ得ベク而シテ其大事蹟ハ種々ノ觀法  
 ヲ以テ説明シ得可キモノタルヲ以テナリ其按

顯著ノ事蹟ニ就テ論スル時其事蹟ハ許多ノ  
 原因ヨリ成ルカ故ニ單ニ氣候ノ一原因ノミ  
 ヲ以テ其實ヲ得但シ其證明セラレタル事實  
 可ラサルヲ云ハ彼ノ熱國ノ民ハ寒國ニ比スレハ其身躰強  
 壯ナラス又其地極メテ豐腴ナルカ故ニ多ク  
 勞働スルヲ要セス又男女ノ情慾此帶度ノ地  
 方ニ於テハ夙ク發動シテ且旺熾ナリ其一切  
 ノ感情急疾ニシテ其想像ハ快活ニ其精神ハ  
 敏捷ナリト雖モ甚ク強健恒久ナラス其人民  
 常慣ノ職業ハ勤勞寡クシテ疎懶多キノ状ヲ  
 現出セリ蓋シ生初ヨリ躰格其強健ヲ缺キ精



神ノ天質其牢固耐久ヲ缺ク者アリ  
第七 人種 佛國若クハ英國ニ生ルト雖  
黑人ハ佛英人種ノ兒子ニ異ナル所多シ墨斯  
哥若クハ泊露ニ生レタリトモ是班牙人ノ兒  
子ハ甚ダ墨泊人種ノ兒子ニ異ナリ蓋シ自然  
ノ性質ハ他諸原因ノ基礎ト為リ而メ人種ハ  
此自然ノ性質上ニ威力ヲ現スルモノナリ而  
シテ其生長ノ後ニ至リ人種ハ道義宗教ノ偏  
癖及ビ愛憎上ニ感動ヲ生ズル更ニ大ナリ  
第八 政府 此事情ハ其威力ヲ現ズルノ教

育ノ威力ト類ヲ同クス蓋シ官吏ハ邦國ノ教  
官ト見做スヲ得ベク而レテ視察周密ナル政  
府ノ下ニ在テハ郷黨ノ教師モ官吏ノ代理ナ  
リ當教師ノミ然ルニアラズ人ノ父タル者モ  
亦官吏ノ代理ナリ但其異ナル所ハ父ノ權力  
ハ期限アリテ官吏ノ權力ハ生涯ヲ極メテ行  
ハル、ニアリ  
此威力タル甚ダ浩大ニシテ殆ント各事ニ普  
及セリ此威力ハ實ニ天質人種氣候ヲ除クノ  
外包括セザル者ナシ何ゾヤ夫ノ人ノ健康ト



三法論綱 卷二  
雖氏許多ノ点ニ於テハ尚ホ此原因ニ關セリ  
警察ノ規則、糧食ノ充足、及ビ疾病ノ分明ナル  
原因ヲ除去スル如キ者即チ是ナリ而シテ教  
育ノ法則、官職ノ制度、賞罰ノ方畧ハ大抵其國  
ノ風土人情ニ因テ定マルナルミレ  
國憲整備セル政府若クハ國憲若ク美ナラズ  
ト雖氏其治術宜キヲ得タル政府ノ下ニ在テ  
ハ其人民大抵名譽ニ制セラル、ト多ク又其  
名譽ハ多ク公利ニ適セル行為ニ屬スルヲ見  
ル、其宗教、感情ハ多ク狂信ノ弊、異教ヲ疾視

スルノ迷ヲ脫離シ多ク荒唐ノ説ト奴隸信仰  
ノ羈束ヲ免レ、一般愛國ノ感情油然而シテ生  
ジ人民其公益ノ何物タルヲ覺知シ衰弱セル  
私黨ハ往日仰望シテ群集セルノ黨旆日ニ其  
權勢ヲ失ヘルヲ見ルアラシ(按衰弱セル私黨  
云々ハ形容ノ言  
辭ニシテ昔日黨與其標的トナシテ相連結セ  
ル者今ハ標的其勢力ヲ失ヒテ黨與ヲ為スノ  
資トナラザルヲ云フ其意ヲ約而シテ人民ノ  
言スレバ私黨衰フルノ謂ナリ)寧ロ官吏ニ屬シ全  
愛情ハ黨魁ニ向ハズシテ寧ロ官吏ニ屬シ全  
國ヲ思フノ愛情其他ノ事ヲ思フヨリ深ク、私  
仇ヲ報ズルノ念永ク存セズ又社會ニ波及セ



其國民好シテ有用ナル費用ニ供スルノ氣  
習ヲ生ゼン例ヘバ地理發見ノ為メニ旅行シ  
農事ヲ進歩シ學科ヲ改良シ國土ヲ修飾スル  
如シ加之人民ノ才智發見シテ著書ト成ル者  
ニ至テモ亦著キ形象アリ即チ穩和ヲ以テ公  
同幸福ノ要件ヲ議スルノ通習ヲ見ルナリ  
第九 宗教ノ歸依 此原因ヨリ觀察スル時  
ハ宗教ノ感情、愛憐、憎惡、及ビ名譽ノ思想、德義  
ノ思想ニ就テ七八分ノ表識ヲ得ベク、又或ル  
場合ニ於テハ人ノ智見、其心性ノ強弱及ビ其

氣象ヲモ其人奉ズル所ノ宗派ヲ以テ判識ス  
ルヲ得然リト雖モ心中甚ダ深ク信仰スルコ  
トク唯便利品行ノ為メニ宗教ノ説ニ歸依ス  
ル者世間一般ナルコトハ余ノ認メテ然リトス  
ル所ナリ此場合ニ於テハ宗教歸依ノ威力ヲ  
減却ス然レモ亦全ク之ヲ絶ツニハアラズ幼  
少ヨリノ慣習、社會ノ結縁、前例ノ勢力按其父祖  
ニ歸依スルニ於テハ子孫深ク之ヲ信仰セザ  
ルモ尚ホ前者ノ例習ニ牽引セラシ、有ルヲ  
云ニ至テハ其基礎トスル所ノ主義既ニ絶ル  
ノ後ト雖モ尚ホ餘響アル者ナリ



其心中「ジュー」「クエカー」「アナバプチスト」カ  
ヴァニス「トリユゼラ」(按宗徒タルノ念ヲ  
名)絶タル人ト雖モ唯名称ノ為メニ己レガ奉ズ  
ル宗派ニ僻スルノ心ヲ存シ各自互ニ他ノ宗  
派ヲ憎ムヲ免レザルベシ

第三章

實利ノ本論ヲ實用ニ供スル方法ヲ論ズ  
船其帆ヲ揚テ走ルニ方リ之ヲ感ズルノ風勢水  
力、船身ノ製狀、船載ノ輕重等ヲ詳知スルニアラ  
ザレバ其運行ヲ算スル能ハズ之レト同狀ニシ

テ夫ノ感情ヲ感ズル一切ノ事情ヲ考察スル  
アザレ~~テ~~立法ノ疑問ニ關シテ確説ヲ建ル能  
ハザルナリ  
今唯其專ラ刑法ニ關涉スル者ニ限リ其他ハ一  
切措テ論ズ~~ル~~雖モ此限内ニ部分ニ於テ一々  
其事情ノ殊様ヲ詳細ニ考察セザル可クズ  
第一 犯罪ノ凶害ヲ定ムルト同名ノ犯罪  
モ其被害者ノ感情同一ナラザル時ハ實際ニ  
於テ同實ノ犯罪ニアラズ例ヘバ一行為アリ  
之ヲ男子ニ加フル時ハ全ク尋常ノ事タルニ



過キザルモ之ヲ婦人ニ施ス時ハ甚シキ不敬  
トナルベク身躰毀損ノ一事モ病人ニ向テ之  
ヲ為セバ其生命ヲ危クス可シト雖氏健全ノ  
人ニ向テ之ヲ行フ時ハ纔ニ小害ニ止ラシ又  
一罪ヲ人ニ負シムルニ之ヲ甲者ニ為ス時ハ  
其名譽ヲ汙蟻シ若クハ生産ヲ蕩壞ス可シト  
雖氏之ヲ乙者ニ施ス時ハ毫モ其損害トナラ  
ザル下アリ  
第二 被害者ニ適當ノ賠償ヲ與フルハ感  
情ノ同一ナラザルヤ同名ノ賠償ハ同實ノ賠

償トスルハ例ヘバ一過行ヲ人ニ加フル時之  
ヲ謝スルニ償金ヲ以テセンニ其被害者ノ格  
位ニヨリ貧富ニヨリ若クハ時論ノ偏倚スル  
所ニヨリ此償金其人ヲ悦ハシムル下アリ又  
其怒ヲ来ス下アリ爰ニ某甲アリ某乙ヨリ不  
敬ノ辱ヲ被ラシニ某乙若シ某甲ヨリ上等格  
位ノ者カ若クハ同等ノ人タラバ請フ恕セヨ  
ト公言スルノミニ十分ナル償補トナル可  
シ然レニ某乙若シ劣等ノ人タラシニハ之ヲ  
以テ十分ナル償補トスルヲ得ズ



第三 刑罰ノ勢力及ビ刑罰ノ罪人ニ與フル  
感。覺。ヲ。算。定。ス。ル。一。感。情。實。ニ。相。異。ナル。場  
合。ニ。於。テ。同。名。ノ。刑。罰。ハ。同。實。ノ。刑。罰。ト。ナ。ラ。ズ  
例。ヘ。バ。追。放。ノ。刑。タル。之。ヲ。少。年。ト。老。人。ト。ニ。施  
ス。ニ。相。同。ラ。ズ。鰥。夫。ト。家。父。ト。相。同。カ。ラ。ズ。邦。内  
ニ。在。ラ。ザ。レ。バ。活。計。ニ。苦。ム。ノ。職。工。ト。唯。其。快。樂  
ノ。有。様。ヲ。變。ズ。ル。ニ。止。マ。ル。ノ。富。人。ト。同。ラ。ザ。ル  
ナ。リ。又。禁。獄。ノ。一。事。ハ。男。子。ト。婦。人。ト。ニ。於。テ。同  
刑。ニ。ア。ラ。ズ。病。人。ト。健。夫。ト。ニ。於。テ。同。刑。ニ。ア。ラ  
ズ。主。人。家。ニ。在。ラ。ザ。ル。モ。一。家。窮。乏。セ。ザ。ル。ノ。富

人ト一家唯其主人ノ勞カヲ仰テ全活シ主人  
去レバ兒子飢餓ニ苦ムノ貧人トニ於テ同刑  
ニアラザルナリ  
第四 一國ノ法律ヲ他國ニ移ス一 兩國人  
民ノ感情實ニ相異ナルニ於テハ同稱ノ法律  
ハ同實ノ法律トナラザルベシ夫ノ歐洲人民  
ノ賴テ其幸福ヲ托スル所ノ法律ヲ移シテ之  
ヲ亞西亞ニ置カバ其社會ノ苦惱トナルベシ  
歐洲ノ婦人ハ身躰ノ自由ヲ享受シ又家内ノ  
全權ヲ有スルノ通慣アリ亞西亞ノ婦人ハ其



教育ニ因テ深閨ニ禁錮セラレ又奴使ニ服セ  
リ其婚媾ニ至テハ歐亞ノ兩洲同一ノ條約ニ  
アラズ若シ之ヲシテ同一ノ法律ニ服セシメ  
バ夫婦ノ不幸ヲ生ズルヤ疑フ可クヤ  
諺ニ曰ク同罪ニ同刑アリト此語タル其公平  
不偏ノ外觀アルヲ以テ皮相論者ヲ誤ル者ナ  
リ今當理ノ意義ヲ此語ニ與ントセバ先ヅ同  
刑トハ如何ナル義乎同罪トハ如何ナル義乎  
豫メ之ヲ決定セザル可ラズ夫レ年齡、資財、格  
位、教育、道義ト宗教トノ偏倚ニ關涉セス固執

シテ變通セザル法律ハ二不可ヲ兼有セン  
トス二不可トハ其法律無効ニシテ且苛酷ノ  
者トイハレテ謂フモリ例ヘバ之ヲ甲者ニ施セ  
バ過嚴ニ失シ乙者ニ加フレバ過寬ニ失シ常  
ニ過不及ノ患アリ是レ公平ノ外觀ヲ現ジテ  
實ニ至甚ノ不公平ヲ包藏スルナリ  
巨萬ノ富ヲ有スル者ト通常ノ家産ヲ有スル  
者ト同額ノ罰金ニ處セラレ、時是レ其刑ハ  
同キ乎此二人ハ同一ノ凶害ヲ被ル乎此明瞭  
ナル不公平ノ處分ハ其外觀ノ公平ニ誑カル



、ガ故ニ其惡々可キヲ最モ甚キ者トナルニ  
アラズヤ且此法律ハ其目的ヲ失フ無キヲ得  
ンヤ何ントナレバ乙者ハ之カ為メニ生計ノ  
資本ヲ蕩盡シ甲者ハ之レニ反シテ其罰金ヲ  
完納シ揚々トシテ去ルヲ得レバナリ試ニ左  
ノ一例ヲ看ヨ剛健ノ少年ト羸衰ノ老夫トヲ  
刑スルニ同一年限ノ鎖錮ヲ以テセンニ夫ノ  
最モ明瞭ナル真言ヲ塗滅スルニ巧ミナル論  
者ハ此刑罰ノ公平ナルヲ證明セント試ミ  
ル可シ也雖此詭辯ヲ好マス天性ト感情トニ

十戾ヲザルノ人ハ此ノ如キ不正ノ事ヲ見事悲  
妙慘外感胸中ヲ刺衝スル無キ能ハズ此徒ハ其  
標的ヲ變シ其罪人ヲ惡ムノ憤情一轉シテ判  
大官ニ向テ再轉シテ立法者ニ向テトスルナ  
以上ノ説ニ對シテ或ル疑議ヲ容ルル者アリ要  
スルニ其皮相ノ觀ニ過キスト雖此亦辯セヌメ  
止ム能ハズ其言ニ曰ク人ノ感情ヲ感ズル一切  
ノ事情ヲ収メテ計畫スルハ何ノ術アリテ之ヲ  
能クスル乎心性ノ強弱智識意好愛憐ノ如キ内  
部隱秘ノ性質ヲ抽出シテ把握スルハ何ノ術ア



リテ之ヲ能クスル乎此等ノ種々ノ形狀ヲ測度  
 スルハ何ノ術アリテ之ヲ能クスル乎蓋シ一家  
 ノ父タル者ハ其兒子ヲ育スルニ於テ其内部ノ  
 性質殊異ノ氣象ニ隨テ之ニ臨ムコト得可シト雖  
 氏郷黨ノ教師僅ニ有限ノ弟子ノ教育ニ任スル  
 者ハ家父ノ若ク然ル能ハス况ヤ稠衆ノ人民ヲ  
 大觀スル立法者ニ至テハ身ヲ一般ノ法律ニ委  
 ムルノ責任更ニ重クシテ若シ各個ノ人民ノ細  
 故ニ任ゼハ其法律ノ繁雜増殖スル果シテ如何  
 ナル可キカ之ヲ省察セサル可ラス若シ又事情

ト性質トノ無限ナル異狀ニ隨ヒ法律ノ實行ヲ  
 變換スルノ權利ヲ以テ之ヲ判官ニ委ネシメハ  
 是レ判官ヲシテ甚キ隨意ノ判決ヲ行ハシメ決  
 シテ之ヲ節制スル能ハサル可ク判官乃チ立法  
 者ノ真正ノ精神ヲ觀ルヲ以テ口實ト為シテ法  
 律ヲ隨意ト憎惡トノ器械ト為サントスルナリ  
 ト  
 右ノ論旨ハ我主義ヲ誹譏セルニアラス但其必  
 ス實行スル能ハサルヲ慮ルナリ而シテ其言タ  
 ル正面ノ駁撃ニアラス寧ロ称シテ疑議トナス



可キ者ナルニヨリ我主義ヲ詳明シテ足レリ必  
スシモ其言ニ答辨スルヲ須キズ

第一 夫レ人ノ感情万殊ニシテ其大部分ハ  
之ヲ把捉スル能ハス又一々其差異ノ現状ヲ  
證明スル能ハス又其差異ノ勢力ト程度ヲ測  
度スル能ハサルハ固ヨリ之ヲ知レリ然ルニ  
幸ニシテ其内部隱秘ノ氣象ハ或ル外面可觀  
ノ明徴ヲ有セリ其明徴トハ上文ニ駢記シタ  
ル第二事情ナル男女年齢格位人種氣候政府  
教育宗旨ノ歸依ニシテ即チ内部ノ氣象ヲ表

スル顯然トシテ明白ナル事情ナリ

是ヲ以テ立法者ハ至難ノ点ニ於テ其助ケヲ  
得タリ敢テ心理ノ性質即チ無形ノ性質ニ關  
シテ思慮ヲ勞スルヲ要セズ唯其明白ナル事  
情ニ就テ論スルヲ得タリ例ヘハ立法者ノ一  
刑ヲ輕重スルニ方リ犯人ノ感情其耐久ノ恒  
心其心性ノ強弱其智識等ニ隨テ之ヲ為サズ  
シテ男女年齢ニ因テ之ヲ為ス但此等ノ事情  
ヲ基トセル豫想ノ往々誤リ易キハ真ニ之レ  
有リ十五歳ノ少年ニシテ三十歳ノ壯者ヨリ



智識多キ者アル可ク。一婦人ニシテ一男子ヨ  
 リ勇氣多ク謙退寡キ者アル可シ。然リト雖  
 一般ニ論スルニ此等ノ豫想ハ正ニ苛法ヲ避  
 ケシメ輿論ヲシテ立法者ニ服歸セシムルニ  
 足ル者ナリ

第二 此等ノ第二事情ハ啻ニ之ヲ把捉スル  
 ニ易キノミナラズ其數至少ニシテ又一般ノ  
 類ヲ成セリ以テ無罪減輕加重ノ原由ニ供ス  
 可キナリ是ニ於テカ困難ノ患ナク全躰悉ク  
 簡明ナルヲ得ルナリ

第三 此方法ニ於テ毫モ隨意ナル事アラズ  
 夫レ男女年齢宗旨ノ歸依ニ隨テ某狀ノ刑ヲ  
 輕重スルハ判官ニアラスシテ法律ニ存セリ  
 其他ノ事情例ハ心性ノ錯亂セル度、躰力強  
 弱ノ度、生計貧富ノ度ノ如キ其多寡ヲ檢スル  
 ハ全ク之ヲ判官ニ委ネサル可ラス而シテ立  
 法者ハ各人各事ニ涉リテ決スル能ハサルヲ  
 以テ一般ノ規程ヲ裁判廳ニ下シ或ル餘地ヲ  
 與ヘ其限内ニ在テハ事情ノ殊狀ニ隨ヒ判官  
 ヲシテ裁判ヲ寬嚴ニスルヲ得セシム



此ニ主張スル所ノ者ハ想像ノ臆説ニアラス夫  
 ノ感情ヲ感スル所ノ事情ヲ全ク空視スルカ如  
 ク慘刺愚蒙ナル立法者ハ古来ヨリ有ル寡シ而  
 シテ此事情ノ幾分カ錯綜セル感念ハ人文政治  
 ノ權利ノ設定ヲ指畫シ此事情ノ多少ノ省察ハ  
 常ニ刑罰ノ制度ノ上ニ顯ハレタリキ夫ノ婦人  
 兒子自由ノ民奴隸兵士僧侶等ノ場合ニ差異ヲ  
 為シタル者ハ即チ是レカ為メナリ  
 蓋シ此等ノ事情ヲ一切棄テ、斟酌セザリシ刑  
 法設立者ハ古来唯ツレイコ  
按希臘ノ古國一人  
 雅典ノ制法家

アルカ如シ其所見ニヨルニ一切ノ罪犯ハ悉ク  
 同罪ナリ何ントレハ皆法律ヲ干犯スル者ナ  
 レハナリト此立法者ハ一切ノ罪人ヲ區別セス  
 悉ク罰スルニ死刑ヲ以テシ人類感情ノ主義ヲ  
 混亂シ又之ヲ覆滅セリ其震慄ス可キ刑典ハ暫  
 時ニシテ止メリ蓋シ其法律ノ行レタル時ニ方  
 リテモ亦其文章ヲ直解ンテ之ヲ實用セザリシ  
 ヤ必セリ又此ノ如ク極点ニ達セサルモ按イノレ  
 為ノ如ク一切ノ罪犯ヲ死刑云此類ノ誤謬多ク行  
 ハレテ如何ナル形状ヲ現ゼシ乎其實例ヲ引用



七ハ枚擧スルニ暇アラサル者アラン古来ノ君  
 主人民特殊ノ感情ヲ包容スルカ中様按尋常ノ  
 ナク不可セナキ者ヲ云詳ノ風習ヲ寛恕スルカ  
 ナル注釋ハ上ニ見エタリ或ル定式ノ為メ古俗  
 或ル衣飾若クハ祭文ノ或ル僻習ヲ存セシムルカヨリハ寧ロ國土ヲ失凶  
 ノ僻習ヲ存セシムルカヨリハ寧ロ國土ヲ失凶  
 シ血河ヲ流溢セシムルヲ甘シタル者甚ダ多キ  
 ハ史上ニ存シテ歷然タリ按是レ皆人ノ感情ノ  
 己ノ所見ニ合セシメントス殊ナルヲ察セスシテ  
 ルヨリ起レルノ災害ナリ  
 今代ノ一君原注ホーストリア勤勞賢明ニシテ、  
 名譽ヲ愛スルノ心盛ニ又其臣民ノ幸福ヲ長セ

下欲スル者アリ其國內百般ノ事務ヲ改革セ  
 ント圖リ之ヲ為スニ及テ全國ノ民心ヲ激シ其  
 レヲシテ己レニ反對セシメタリ其死ニ臨ムノ  
 夕ニ於テ生涯經驗シタル一切ノ懊惱ヲ回想シ  
 其墓碑ニ刻スルニ其一切ノ謀圖不幸ニシテ敗  
 壞セル事ヲ以テセントヲ望ミタリキ若シ之レ  
 ニ加フルニ此君主ハ人ノ偏倚意好感情ヲ包容  
 スルノ術如何ヲ知ラザリキトノ語ヲ以テセハ  
 其後人ノ訓戒ニ利アリシヤ必セリ  
 立法者例外制限減輕ノ手段ニ因リ人ノ性情ヲ



覺知セバ立法者感情ノ種々ノ度ト種々ノ類ト  
 向テ豫算ヲ為サバ威力ノ調和ハ父親ノ謙讓  
 ナルガ如ク人ヲシテ之ヲ愛慕セシムベシ夫ノ  
 仁愛公當適切節度智惠ノ諸名称ヲ其名称ヲ下  
 ス稍漠然タリト雖法律ニ附與シテ之ヲ賞譽  
 スルハ實ニ此ノ基礎ニ是レヨレリ  
 吾輩ハ爰ニ立法者ト醫師ト其術ノ致ヲ同クス  
 ルヲ見得タリ人ノ感情ヲ感スル所ノ事情ノ表  
 記ハ此二科ノ學ニ於テ等ク須要ナリトス夫ノ  
 醫者ノ良庸懸絶スル者ハ何ゾ其人ノ特狀ヲ成

ス所ノ諸事ヲ省察スルト否ルトニ在ルノミ然  
 レレ病夫ノ氣象ヲ感スル諸事ヲ覺知スルハ其  
 精神ノ疾病ト無形性質ノ感ビラル、疾病ト有  
 害ノ慣習ヲ一新セサル可ラザル時ニ於テ最モ  
 必要ナリ此際ニ於テ一箇ノ誤謬アレバ之レガ  
 為メニ一切ノ効果ヲ變ジ其治術トシテ施シ、  
 者却テ其害ヲ大ニスルニ至ルヲ無キニアラズ



立法論綱  
卷二

立法論綱卷二

一、法律之概念  
二、法律之種類  
三、法律之效力  
四、法律之解釋  
五、法律之修改  
六、法律之廢止  
七、法律之衝突  
八、法律之溯及力  
九、法律之不溯及力  
十、法律之適用



